



8 横山大観

《扶桑第一峰》 一幅

昭和三年（一九二八）

絹本着色

本紙七〇・六×一一五・〇

皇室の御用を受け、また一方でわが国の美術奨励とその技術等を磨いて後進の指導に当たることを主眼として、明治二十三年（一八九〇）から昭和十九年（一九四四）に計七十九名の作家が任命された帝室技芸員の中で、もつとも皇室への崇敬の念をその作品に表したのが横山大観（一八六八～一九五八）であろう。大観は、明治三十五年の夏、米国人を案内して立山に登山した際に雲海の中に聳え立つ富士の美しさに感動して富士図に取り組むようになり、生涯に千五百点余りの富士図を描いたと言う。大正十五年（一九二六）には、明治宮殿内装飾の為の大型屏風《朝陽富士》の御下命を受け、本作制作の前年に完成して納めている。

わが国一番の霊峰という意の題名をもつ本作は、朝陽、富士、松樹という近代に定着した吉祥の意匠を、墨、白、赤そして金泥で壮大さと神々しさを表わす。朝陽に照らされる手前の松樹は皇居の松樹を暗示し、日本の象徴である富士と皇室を重ね合わせたかのような本図は、若き昭和天皇の前途に慶祝の意を示し、また希望を託しているかのようである。

昭和三年の大礼を祝して、衆議院より献上された作品である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大札 ― 慶祝のかたち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 85

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

令和元年九月二十一日発行

©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan